

背景や根拠を丁寧に解説する情報の 体系整理について（再案）

検討の進め方

- 中間とりまとめで整理した防災気象情報のカテゴリーに沿って、体系整理に向けた議論を進める。
- 対象となる防災気象情報の名称についても議論する。（④）

※「簡潔な情報」と「背景や根拠を丁寧に解説する情報」の両方の性質の情報もあると考えられる。

① 住民の避難に資するための「警戒レベル」に相当する情報として整理されたもの（サブワーキンググループでとりまとめ）

対応や行動が必要な状況であることを伝える簡潔な情報

対応や行動が必要であることを簡潔な情報で伝えることにより、誰もが直感的に状況を把握し、とるべき行動や対応を判断できるよう支援。

対応や行動が必要な状況であることの背景や根拠を丁寧に解説する情報

住民一人ひとりが納得感をもって具体的な対応や行動を判断できるよう支援するための情報で、報道や市区町村等の情報の伝え手がそれぞれの言葉でかみ砕いて説明したり、発令される避難情報と併せて地域に根差した呼びかけをしたりすることに活用。

③ 全般／地方／府県
気象情報
記録的短時間大雨情報
顕著な大雨に関する気象情報／顕著な大雪に関する気象情報
竜巻注意情報 等

② ①以外の特別警報・警報・注意報（警報の無い注意報も含む）

防災気象情報の基盤となるデータ

利用者が自ら、または民間事業者等を通じて、データを用いて容易にカスタマイズできるような環境整備の一環として、防災気象情報の基盤となる、加工可能なデータの提供を一層充実。

⑤ 防災気象情報を活用するためのコンテンツ作りや人材の育成に係る取組を含め、防災気象情報のより一層の活用に向けた取組について検討。

【論点】

- ① 警戒レベル相当情報（土砂災害、高潮、洪水）の体系整理
- ② 警戒レベル相当情報以外の警報・注意報等の体系整理
- ③ 背景や根拠を丁寧に解説する情報の体系整理
- ④ 防災気象情報の名称
- ⑤ 防災気象情報のより一層の活用に向けた取組

前回（第6回）の
検討会で扱った論点

解説情報の内容に応じた整理

- 解説情報の性質の違いを考慮のうえ、**極端な現象を速報的に伝える情報**と**網羅的に解説する情報**に分類して提供し、それぞれの情報の性質について利用者の理解が進むよう、周知・普及に取り組む。
 - 「**極端な現象を速報的に伝える情報**」は、危険な状況となるおそれを伝える警戒レベル相当情報をはじめとする警報を補足するため、線状降水帯をはじめとした具体的な極端現象が発生または発生しつつある場合に、当該現象を対象に発表される情報。
 - 「**網羅的に解説する情報**」は、現在及び今後の気象状況や災害発生危険度の見通しを網羅的に伝える情報。

現状

顕著な大雨に関する気象情報

記録的短時間大雨情報

顕著な大雪に関する気象情報

竜巻注意情報

全般/地方/府県気象情報
(短い文章で伝えるもの)

全般/地方/府県気象情報

全般台風情報

整理後

気象速報（線状降水帯発生）※1

気象速報（短時間大雨）※1

気象速報（短時間大雪）※1

気象速報（竜巻予測/目撃）※1

気象速報（暴風/高潮）※1

気象解説情報（※2）※1

気象解説情報（台風第〇号）※1

極端な現象を速報的に伝える情報

網羅的に解説する情報

※1 情報名称はイメージ（議論は今後実施）

※2 何に注目した情報なのかがわかるよう、キーワードを付すイメージ

【指摘事項】

- 「極端な現象を速報的に伝える情報」（特に「記録的短時間大雨情報」や「顕著な大雨に関する気象情報」）は、中間とりまとめにおける「対応や行動が必要な状況であることを伝える簡潔な情報」に位置付けられるのではないか。
- 竜巻注意情報は、現象発生確度が低く、上記案における「極端な現象を速報的に伝える情報」の中では異質ではないか。
- 24時間降水量等が記録的となった場合も、「極端な現象を速報的に伝える情報」により伝えるのが良いのではないか。

- 「対応や行動が必要な状況であることを伝える簡潔な情報」について
 - 誰もが直感的に状況を把握できる情報であることを踏まえ、警戒レベル相当情報(A-1)及びそれ以外の特別警報・警報・注意報(A-2)を位置づけることとしたい。
- 「対応や行動が必要な状況であることの背景や根拠を丁寧に解説する情報」について
 - 各情報の性質を踏まえると、「極端な現象を速報的に伝える情報」(B-1及びB-2)と「気象状況を網羅的に解説する情報」(C)に二分できる。
- 「極端な現象を速報的に伝える情報」について
 - (B-1)が(A-1)を、(B-2)が(A-2)を補足するものとして、対応や行動が必要な状況である根拠を示して解説する情報と整理できる。
 - (C)と比較すると、(A-1)及び(A-2)の情報と結びつきが強いことから、速報性が高い情報と整理できる。
 - 24時間降水量等が記録的となった場合は、(B-1)に該当する情報として発表する。

対応や行動が必要な状況であることを伝える簡潔な情報

(A-1) 「警戒レベル」に相当する情報

(情報例)

- ・ 土砂災害に関する情報
- ・ 洪水に関する情報
- ・ 大雨浸水に関する情報※1

(A-2) (A-1)以外の特別警報・警報・注意報（警報の無い注意報も含む）

(情報例)

- ・ 大雪警報
- ・ 雷注意報

極端な現象を速報的に伝える情報

(B-1) (A-1)と結びつきが強い情報

(情報例)

- ・ 記録的短時間大雨情報
- ・ 顕著な大雨に関する気象情報
- ・ 24時間降水量等が記録的となった場合の情報

(B-2) (A-2)と結びつきが強い情報

(情報例)

- ・ 顕著な大雪に関する気象情報
- ・ 竜巻注意情報

気象状況を網羅的に解説する情報

(C) 気象状況を網羅的に解説する情報

(情報例)

- ・ 全般/地方/府県気象情報
- ・ 全般台風情報

← 補足

← 補足

※1 警戒レベル相当情報への位置づけについては、関係機関で今後検討。